

# ろうきんの事業概況

## 2019 年度の事業概況

2019 年度の事業は、2018 年 4 月からスタートした「第 6 期中期経営計画（2018 年度～2020 年度）」の中間年度にあたります。「深める」「広める」「高める」の 3 つのテーマに基づいた取組みを定着・深耕させるとともに、当金庫にとっての「持続可能なビジネスモデル」である「量から質への転換」をめざし、次の主要課題に取組みました。

1. 「金融環境の変化に対する迅速な対応」
2. 「量から質への転換」の加速
3. 「予算の選択と集中」
4. 「SDGs（持続可能な開発目標）」において求められる役割発揮

テーマに沿った主な事業内容は以下の通りです。

| テーマ        | トピックス                                                                                                                                                                                                                                                  |
|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 深める        | <ul style="list-style-type: none"> <li>◎勤労者の皆さまの資産形成を支援する「資産形成キャンペーン」を展開しました。</li> <li>◎家計収支の改善・可処分所得向上をめざした「マイプラン生活応援キャンペーン」や相対取引による「乗り換えキャンペーン」を実施しています。</li> <li>◎「PVC」を中心に資産運用、相続、健康管理のセミナーを開催しました。</li> </ul>                                     |
| 広める        | <ul style="list-style-type: none"> <li>◎生協組合員の方々を対象とした「東北ろうきんコオペローン」の取扱いを開始しました。</li> <li>◎「Web 完結型カードローン」の利用対象者を拡大しました。</li> </ul>                                                                                                                    |
| 高める        | <ul style="list-style-type: none"> <li>◎営業支援タブレットを導入し、預かり資産相談の高度化を進めました。</li> <li>◎「オープン API」による「ろうきんアプリ」サービスを開始しました。</li> <li>◎キャッシュレス決済「LINE Pay」の取扱いを開始しました。</li> <li>◎「RPA」による業務の効率化を進めています。</li> <li>◎店舗戦略のひとつとして、11 店舗で窓口一時休業を導入しました。</li> </ul> |
| 「量から質」への転換 | <ul style="list-style-type: none"> <li>◎信用リスクを活用した新たな融資審査基準を導入・運用しています。</li> <li>◎上乗せ金利預金の上乗せ幅を改定し、預金利息の適正化を図りました。</li> <li>◎金利リスクの低減と収支のバランスを図るため、住宅ローン特約期間ごとに金利を見直しました。</li> </ul>                                                                   |
| 自然災害への対応   | <ul style="list-style-type: none"> <li>◎台風 19 号で被災した「郡山東支店」「石川支店」の業務継続体制に取り組みました。</li> <li>◎また災害救援ローンの取扱いとともに、被災した 3 県へ見舞金をお贈りしています。</li> </ul>                                                                                                        |

## 業績

### 会員・出資金

当金庫の事業基盤であります団体会員は、2019 年度で 66 会員の新規加入等があったものの、組織の統廃合等で 127 会員の脱退、通常総会において所在不明会員 10 会員の除名を行ったため 71 会員減少し、5,778 会員となりました。団体会員を構成する間接構成員は 3,089 人増加して 785,912 人となりました。出資金は、増資により 9 億 87 百万円増加し、74 億 83 百万円となりました。

#### 【団体会員数・間接構成員】

|       |         |           |
|-------|---------|-----------|
| 団体会員数 | 2018 年度 | 5,849 会員  |
|       | 2019 年度 | 5,778 会員  |
| 間接構成員 | 2018 年度 | 782,823 人 |
|       | 2019 年度 | 785,912 人 |

### 預金

総預金残高（含む譲渡性預金）は 2 兆 926 億 53 百万円と期中 626 億 20 百万円増加しました。個人預金は 640 億円増加し、計画の 350 億円に対し 183.1% の達成率となりました。上乗せ金利定期預金により定期預金が 312 億円増加しました。また普通預金も給与振込・年金指定口座の拡大等により 315 億円増加しています。積立型預金は 25 億円の減少と 3 期連続で期首割れとなりました。

#### 【預金残高の推移】

|         |            |
|---------|------------|
| 2018 年度 | 2 兆 300 億円 |
| 2019 年度 | 2 兆 926 億円 |

### 貸出金

総融資残高は 1 兆 2,445 億 19 百万円と期中 471 億 54 百万円増加しました。個人融資は 479 億円増加し、目標の 350 億円に対し 136.8% の達成率となりました。住宅ローン等の有担保ローンが 455 億円増加しています。

一方、無担保ローンは 27 億円、当座貸越は 20 億円の増加と前年度実績を下回りました。手形貸付は 24 億円の減少と 2016 年 3 月期以来の期首割れとなっています。

#### 【貸出金残高の推移】

|         |              |
|---------|--------------|
| 2018 年度 | 1 兆 1,973 億円 |
| 2019 年度 | 1 兆 2,445 億円 |

### 損益

經常収益は 284 億 62 百万円と計画を 14 億 33 百万円上回るとともに、前年度比 1 億 91 百万円の増収となりました。貸出金の増加により貸出金利息が 190 億 8 百万円と、前年度実績を 4 億 37 百万円上回りました。有価証券利息配当金は計画を 1 億 77 百万円上回ったものの、残高の減少から前年度比 2 億 27 百万円減少、またその他受入利息も労金連合会配当金の減少から 2 億 45 百万円の減収要因となりました。役務取引等収益は計画を 98 百万円上回るとともに、前年度比 2 億 42 百万円増加しました。会計処理の変更から今期分の日信協新規事務手数料を未収計上する特殊要因はありましたが、不動産担保手数料や投信販売手数料が増加に寄与しました。その他業務収益には国債等債券売却益 8 億 64 百万円を計上しています。

經常費用は 233 億 78 百万円と計画を 4 億円下回ったものの、前年度比 1 億 23 百万円増加しました。上乗せ金利預金の増加により、預金利息が計画を 89 百万円、前年度実績を 88 百万円上回りました。その他業務費用では、「新型コロナウイルス感染拡大」による市場変動リスクの高まりを受けて、外国債券や投資信託を売却した損失 1 億 20 百万円を計上しています。一方、経費は老朽化店舗対応等政策投資案件の遅れから計画を 5 億円下回り、經常費用を押し下げる結果となりました。

經常利益は 50 億 83 百万円と計画を 18 億 33 百万円、前年度を 68 百万円上回る増益となりました。なお、本業を示す業務純益は 52 億 57 百万円、計画を 17 億 3 百万円上回ったものの、前年度比 15 百万円の減少となりました。特別損益計上後の当期純利益は 36 億 36 百万円、計画を 12 億 73 百万円、前年度実績を 2 億 75 百万円上回りました。

## 事業の展望および課題

2020 年度は第 6 期中期経営計画の最終年度として、「3 つのテーマ」に基づく取組みの総仕上げ、また「量から質へ」の確実な転換が求められます。「金融環境の変化に対する的確・迅速な対応」「地域情勢に応じた店舗戦略と老朽化店舗対応」「SDGs の目標に掲げる金融包摂の具体化」は喫緊課題です。一方、「新型コロナウイルス」感染拡大が経済・社会に及ぼす影響は予測がつかず、企業活動の停滞、勤労者の方々の収入・雇用を不安定なものとしています。当金庫は協同組織の福祉金融機関として、「新型コロナウイルス」感染拡大の防止とともに、勤労者の方々の生活と家計に寄り添った金融商品・サービスを展開し、その役割を発揮してまいります。

#### 2020 年度の事業課題

- ◎「新型コロナウイルス」感染拡大防止と勤労者の方々の生活と家計を支える取組み
- ◎労金運動の強化発展～「SDGs（持続可能な開発目標）」において求められる役割発揮
- ◎「金融デジタル化」への対応
- ◎「持続可能な事業モデル、経営基盤」の確立
- ◎「働きがいのある組織風土」の確立

## 内部統制システムの整備

当金庫は、理事会において「内部統制システムの整備に関する基本方針」の決議を行い、理事および職員の職務執行が法令や定款に適合するための体制および金庫ならびに子会社の業務が適正に確保されるための体制の整備に取り組んでいます。なお、基本方針の内容は当金庫のホームページに掲載しております。